

新南海会館ビル(仮称)の着工について

南海電鉄（社長：遠北 光彦）では、本社機能を置いていた南海会館ビル（大阪府中央区難波5丁目）の建替計画を進めてまいりましたが、このたび旧南海会館ビルの解体工事完了を経て、平成27年9月1日に、新南海会館ビル（仮称）の新築工事に着工いたします。

当社としては、当プロジェクトを当社グループの最重要拠点である難波における持続的な成長を目的とした戦略的プロジェクトと位置付け、難波エリアのポテンシャル向上と新たな価値創造を目指してまいります。

新南海会館ビル（仮称）については、最高水準の耐震ならびにBCP機能に加え、関西国際空港直結の立地を活かしたオフィス機能を強化するとともに、先進・予防医療、都心型コンベンション、国内外からの観光客向け等の各施設の設置によって、新たな都市機能を備えた複合ビルとすることで、難波エリアのさらなる活性化の要として、エリアの有する可能性を最大限に引き出してまいります。

詳細は別紙のとおりです。



難波街区の中核を成す新南海会館ビル(仮称)完成イメージ

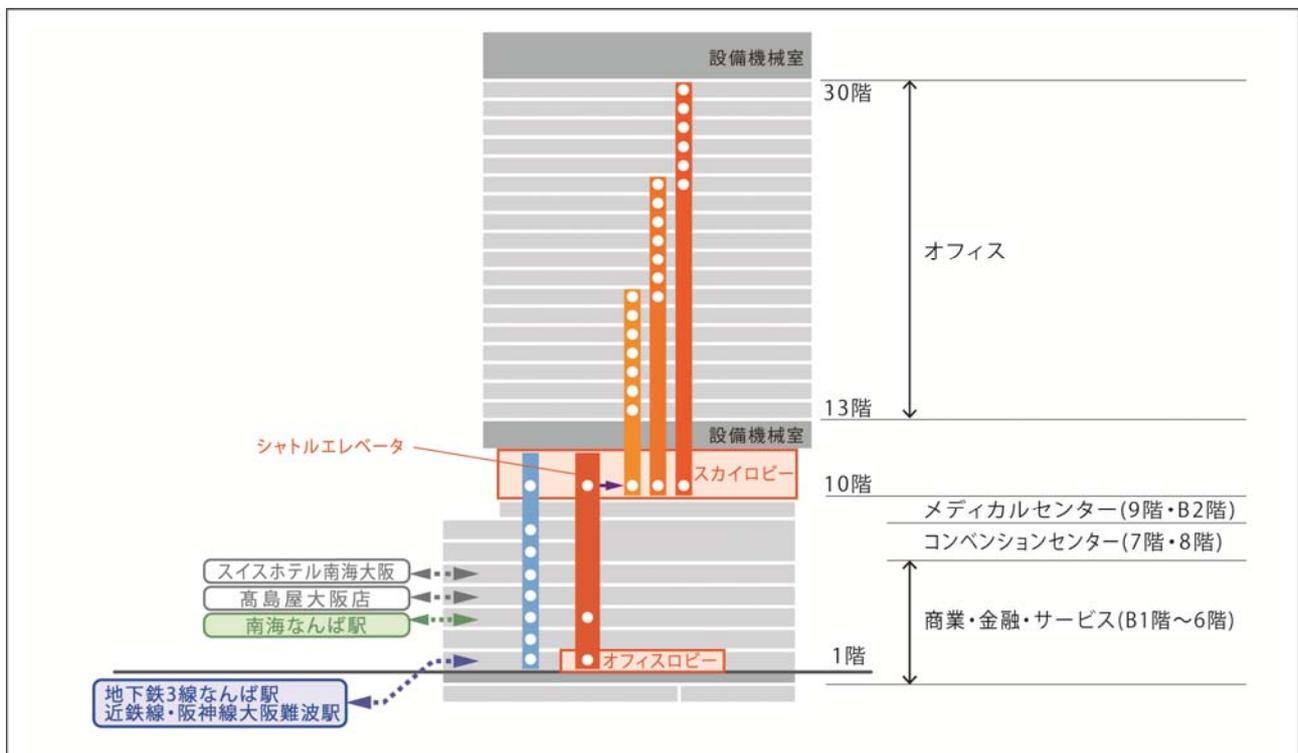
位置図



新南海会館ビル(仮称)の着工について

1. 建築概要

所在地	大阪府中央区難波 5-1-60
階数	地上 30 階 地下 2 階
建物高さ	約 148m
延床面積	約 84,000 m ²
構造	鉄骨造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造)
用途構成	事務所・店舗・ホール・医療施設 他
設計・監理	株式会社大林組
施工	大林組・竹中工務店・南海辰村建設共同企業体
竣工予定	平成 30 年 9 月



2. 各施設の特徴

(1) オフィス (13～30 階)

13 階から 30 階に配置するオフィスは、18 フロア (貸室面積合計約 10,500 坪)、基準階貸室面積約 570 坪、最大 12 分割 (40 坪～) 可能な高機能オフィスです。

また、建物全体における特級クラスの構造体耐震性能、災害時等の帰宅困難者の館内滞留にも備えた国内屈指の B C P 機能を確保しています。

これらの機能に加え、難波駅直上の優れたアクセス性、利便性を有するオフィスは、企業の本社等拠点事務所から顧客対応型のサービスオフィス展開まで、多様なニーズに応えることが可能となります。

(2) メディカルセンター (9階・地下2階)

9階および地下2階に、先進・予防医療のためのメディカルセンターを誘致します。

関西国際空港との直結に加え、地下鉄線・近鉄線・阪神線と接続し、大阪国際空港（伊丹）とも30分圏内にある交通ポテンシャルを活かし、国内外から利用者の受け入れが可能な診察・検診施設とします。

また、先進医療を提供する医療施設との中継機能を果たすことで「日常の利便性と万が一の安心」を提供できるメディカルセンターを目指します。

(3) コンベンションセンター (7階・8階)

7階、8階には、駅直上という利便性や集客効果を活かし、多目的ホールとカンファレンスルーム（会議室）を導入します。

多目的ホールは、500人規模のセミナーやシンポジウムに対応できるほか、カンファレンスルームとの一体利用によって展示会等の開催も可能となります。

また、隣接するスイスホテル南海大阪や高島屋大阪店、なんばCITY等の商業施設とも連携したMICEにも対応してまいります。

(4) ツーリストサロン (5階)

関西国際空港からの玄関口であり、奈良・神戸・京都方面への乗り換え拠点でもある難波に求められる機能として、5階に、増加するインバウンド旅客をはじめとした国内外からのツーリストの多様なニーズに対応するツーリストサロンを設置します。

日本の伝統文化からポップカルチャーまで幅広いエッセンスをワンフロアに集積、「日本文化の発信と再発見」をテーマに、日本のモノ、コトが体験、情報発信できる拠点づくりを行ってまいります。

(5) 商業・金融サービス (地下1階・1～3階・6階)

地下1階から3階と6階では、難波駅直結のロケーションを活かし、物販、サービス、金融等リテール機能を集積します。

当ビルならびに難波駅の日常利用者から、国内外の観光・ビジネス来訪者に至るまでの幅広いニーズに応え、難波エリアの利便性を向上してまいります。

(6) 周辺整備事業 (都市基盤機能整備)

当ビル新築工事に合わせて周辺歩行者通路等都市基盤を整備し、難波の交通結節機能の一層の充実を図ります。

- ・地下鉄なんば駅から南海難波駅への通路バリアフリー化
- ・南北歩行者通路、広場整備
- ・新たな駐輪施設整備

【本計画の推移と今後のスケジュール】

○都市再生特別地区として都市計画決定	平成 23 年 11 月
○当社本社移転完了（南海なんば第 1 ビル）	平成 25 年 2 月
○旧南海会館ビルの解体工事着手	平成 26 年 9 月
○新南海会館ビル（仮称）の新築工事着工	平成 27 年 9 月
○新南海会館ビル（仮称）竣工	平成 30 年 9 月（予定）



御堂筋のランドマークとなる新南海会館ビル(仮称)完成イメージ

（ご参考：BCP対応機能について）

・「TMD（チューンドマスダンパー）制振装置」による地震の揺れの低減	地震時に建物頂部の錘が逆方向に動くことにより揺れを低減。長周期地震動に効果が大きい。
・非常用発電機※からのOA電源供給	20VA/m ² （72時間）
・非常用発電機による空調機能維持	居室内通常時最大負荷の50%（72時間）
・非常用発電機による照明機能維持	通常の50%照度で居室内全点灯（72時間）
・常用EVの一部運転維持	各バンクEVを1~2台運転（72時間）
・断水時のトイレ利用維持	10万回利用分の貯水槽、排水槽設置
・災害備蓄（3日間）	食糧・飲料水の備蓄（5万食）

※非常用発電機は、重油と中圧ガスの併用式を採用

以上